

中部経済新聞

(1) THE MID-JAPAN ECONOMIST

2010年(平成22年)

10/13

水曜日(日刊)

◎ 第21502号

© 中部経済新聞社2010

キャリア
研

飛行探査ロボ開発へ

画像通じ遠隔操縦

愛知県の
支援認定 災害地の情報収集

3次元CAD設計の
キャリアオ技研(本社長
古屋市中村区名駅2の
38の2、富田茂社長、
電話052・627・
0495)は、愛知県

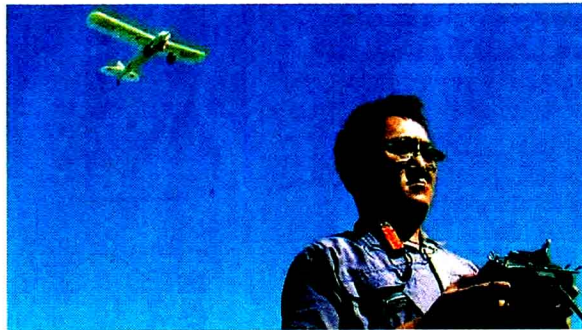
が行う次世代ロボット
実証支援事業の認定を
受け、災害地の情報を
収集する飛行探査ロボ
ットの実証実験を行
う。有人飛行では危険
を伴う災害地の情報を
収集するため、無人の
探査飛行機を開発する
のがねらい。飛行機タ
イプとヘリコプター

同社は、災害時の上
空からの情報収集につ
いては、飛行船に無線
通信基地を搭載して行
う方式の実証実験に参
加した経験を持つ。ア
ルコール燃料を動力に
用いた飛行船で、ヘリ
ウムガスなど扱いの難
しい問題が多いことか
ら、リチウムイオン電
池を用いた電動飛行機
による探査

機開発に取
り組んでい
る。災害地の
状況の把握
は、クレー
ンに人を乗
せて写真を
撮影した
り、ロック
クライマー
に依頼して
行っている
が、クレー

ンよりも高い山の向
う側が撮影できなかつ
たり、危険が伴うなど
の問題を抱えている。
このため、発泡スチ
ロール製の安価な飛行
機にカメラを搭載し、
リモコン操作で災害地
の状況を撮影する。し
かし、従来方式のリモ
コン操縦は、飛行中の
機体の動きを見ながら
行うため、機体は操縦
者の位置から見えない
山の向こう側へ越える
ことができない。

このため、飛行中の
飛行機から見える光景
が操縦者にリアルタイ
ムに見えるようにし、
実際に飛行機に乗って
いるかのような有視界
飛行の実現を試みる。
リアルタイムな飛行画
像は、映像表示装置付
きの眼鏡を通じて見る
ことができる。



飛行機からの視界が眼鏡に映るので、
機体を見ないで操縦できる

愛知県の次世代ロボ
ット実証支援は、今後
成長が期待されるロボ
ット産業の振興に向
け、商品化に近い研究
開発をバックアップす
るための事業。キャリ
オ技研は、災害地探査
飛行機の開発が社会的
に重要な研究であるこ
とから応募し、対象事
業のひとつに選ばれ
た。

(津田一孝)